平成 22 年 6 月 9 日
東京フォーラム
於：湯島聖堂

中斎塾　東京フォーラム
平成 22 年　第 6 回講話

新鮮な驚き

では恒例の質問を致します。今日は御一人の方にお聞きしてみましょう。

○○さん、昨日は何時に起きて何時に寝ましたか？　その間、何か思い出しますか？　誰に会ったとか、誰かの顔が浮かびますか？

（・・・思い出します。）

○○さんは、夜寝る時に思い出す癖を付けていますか？

渋沢栄一は夜寝る時に必ずその日あったこと（誰に会って、何を話したか、何か約束をしたか）を一つ一つ思い出して寝る癖をつけていました。その癖は論語の中の三省から学んだと言われます。

昨日一日、朝起きてから夜寝るまでの間、嘘をつきませんでしたか？

（・・・つきませんでした）

昨日は一日良い日でしたか？

（・・・そうでもありません）

一日の動きの中で、何か一つ良いと思うものを見つければ、それだけで良い日だと言えます。何か良いと思ったものを見つけて下さい。

では、皆さんにお聞きします。

○　昨日一日、朝起きてから夜寝るまでの間、嘘をつかなかった方？

○　昨日一日、良い日だったなと思える方？

○　有難うと言い、有難うと言われた方？

もう一つ、お聞きします。

○　今月に入ってからで結構です。何かハッとしたこと、感動したことがあった方？　良い方にハッとするのが良いのですが、何か、これは素晴らしいというものに出会った方はおられますか？

（・・・何人か手が挙がる）

後ほど、手の挙がった方に発表して戴きます。

新鮮な驚きをすると、瑞々しい感性が養われます。誰も氣にしない、見過ごしてしまうようなものの中からハッとするような感動を見つけ出せれば、その方のレベルがどんどん上がってきていると思ってよろしいでしょう。

論語から今を見る

論語の学び方は、何度も読んでいると自然と沁み込んで来ると考えています。論語の入門は、とにかく読むこと。すらすら読めるようになれば入門編は合格です。

中級になると自分の好きな科白が見つかる。私は今日素読した論語のなかでは、「晏平仲善く人と交る。久しくして之を敬す」という科白が好きです。晏平仲という人は誰とでもよく付き合う。暫く付き合っていると、自然と周りから尊敬されるようになる。これはなかなか出来ないことです。長い間付き合っているうちに、だんだん付き合い難くなる人が多いものです。長く付き合えば付き合うほど尊敬されるようになるし、また話を聞きたいと思われるようになる。これは人との付き合い方で良いなと思います。このように論語の中から良い科白を見つけて、自分自身の身体の中に沁み込ませる。座右の銘を聞かれた時に、それがすっと出てくる。そういう使い方ができるようになれば、中級編は合格です。

上級編になると、登場人物が目に浮かんで来ます。スクリーンで見るように生き生きと人物が動き出して、会話や動作、表情が見えるような氣がする。そういう所まで来れば上級編です。

今、ご自分がどのあたりにいるのか考えながら読んで下さい。その先は、論語を今の時代に照らし合わせて、今の時代にどう置き換えられるか、その眼鏡を通して論語を見る。論語を現代に置き換えてみる。そういう見方を自由自在にするようになってくる。そうすることによって論語が現代に活かせると考えています。

本日の論語は、公冶長第五　12～18 です。

【十二】　子貢曰く、夫子の文 章 は得て聞くべし。夫子の性と天道とを言うは、得て聞くべからざるなり。

子貢が言うには、孔先生の文化に関する考え方は聞くことが出来る。見ることも出来る。ただ、先生の本性と天の道理については、なかなか聞くことはできない。

言い換えると、自分がまだそのレベルには達していないというように感じている。

素晴らしい人だという話は聞くけれども、直接あって話を聞いてみるとがっかりする場合もあるし、その奥に何か素晴らしいものがあるように感じる場合もある。

ここらへんは、山田方谷と河井継之助の師弟の交わりを考えると、ピンとくると思います。河井継之助が亡くなって、山田方谷が継之助の義理の兄に会って話を聞いた時に、山田方谷の行った備中松山藩の藩政改革を継之助が兄に細かく語っていたと知ります。方谷は一言も継之助に話をしていないにもかかわらず、よくぞそこまで見抜いたものだと驚いたそうです。話はしないけれども、日頃の言動や周囲の人たちの話等をひっくるめて、河井継之助は身体で山田方谷の文化や天の道理の活かし方を体得したのだろうと感じます。

【十三】　子路聞くこと有りて、未だ之を行う能わざれば、唯聞くこと有らんを恐る。

子路は孔子から教わったことを即実行しようとして、一所懸命努力をする。それが実行できないうちに、次の教えを聞くことを恐れた。

教わったことをまず一所懸命やって、それが出来たならば次の段階に進む。周りにこういう人がいたら凄いと思います。

【十四】　子貢問いて曰く、孔文子は何を以て之を文と謂うやと。子曰く、敏にして学を好み、下問を恥じず。是を以て之を文と謂うなりと。

子貢が孔子に「孔文子は死んだ後に文というおくり名をつけられたのは何故ですか」と聞きました。

孔文子は衛の国の重臣ですが、衛の霊公の娘を自分の妻にしたのを鼻にかけて、権力を笠に着るような人物だったようです。疾という衛の国の貴族に、妻と離婚して自分の娘を娶るように迫って、娘を嫁がせました。疾が先妻との仲が切れないのを知って、孔文子は疾を攻め、疾は亡命してしまいます。すると今度はその弟に自分の娘を嫁がせました。そのように人格的に問題のある人間であるのに、なぜ、文というおくり名をつけたのか質問したのです。

孔子が言いました。

「孔文子は頭の回転が速い。学問を好んで、自分より目下の人間に知らないことを聞いてもいっこうに恥じない。だから文というおくり名を得たのだ」

自分より目下の人間に分からないことを聞くのは恥ずかしいので、普通は聞かないものです。しかし孔文子は学問好きでそういうことを恥じないし、部下の意見を取り入れるよ

うな性格を持っている。孔文子の良いところが目立ったので、文というおくり名をあげたのだと答えています。

今の民主党や政治家を見て、良いところと悪いところをずらっと並べて、自分に波長のあうような言動をしている者は良し、波長の合わない言動の政治家は駄目、というような判断で見ていけば良いと思います。

池波正太郎の小説を考えてみるのも良いと思います。どんなに良い人でも悪いところがあり、どんな悪人にも善意があるもので、それが人間というものだというトーンで描かれています。

【十五】　子 子産を謂う。君子の道 四つ有り。其の 己 を 行 うや 恭 。其の上に事うるや敬。其の民を 養 うや恵。其の民を使うや義と。

子産について孔子が批評をしました。

君子の道は四つある。身を持する時には謙遜、目上の者に接する時には尊敬、国民に対しては恩恵、国を治めるには国民に対して公正が必要である。

総理大臣が代わりましたから、菅さんを想像して見るとおもしろいと思います。総理大臣に相応しい行いをしているでしょうか。身を持するには謙遜だろうか、目上の人に対して尊敬の念をもっているか、国民に対して良い政策をどんどん実行していくか、国民に対して公正な政策をとっていくか、四つの判断基準で見ていくと良いでしょう。

翻って組織の長たる者、或いは自分自身は、四つの判断基準に照らしてどうか考えてみる必要があると思います。私も自分自身で考えると、非常に難しい。でも、なるべく努力しようと思います。

其の民を養うや恵（国民に対しては恩恵を施す）という部分は、子供手当てをばら撒いたり、高速道路の無料化を進めたりするのとは違うと思います。自主独立独歩の道を行くのが一番良いと思うのですが、現実には生活保護を申請する人が今、もの凄い勢いで増えて、金額は 3 兆円を超すかどうかというところに来ています。役所は生活保護を申請させないような方針でやっていたけれども、ＮＰＯ法人が生活保護を申請できるように手助けをしています。結果として生活保護を申請する人が全国各地で急激に増えています。各自治体のＨＰを調べるとその記述がありますが、国がトータルして生活保護についての数値をまだ出してはいません。

其の民を使うや義（国民に対して公正であるか）という部分では、恨む人が非常に多いと思います。

ですから民主党はこの文章をじっくり考えてもらうがよかろうと思います。我田引水ですが、山田方谷の行った財政改革をもっと調べて実行するがよかろうと思います。

【十六】　子曰く、晏平仲　善く人と交る。久しくして之を敬す。

人と付き合うと、だんだん周りから敬意を払われるようになる。これもなかなか難しいと思います。最初は疎遠でも、だんだん敬意を払われるような付き合い方をしていく。これは一つの目標だろうと感じます。

河井継之助と山田方谷の関係で申しますと、河井継之助は親元に無心の手紙を送るのですが、最初は「安五郎なる者のところに話を聞きに行く」という書き方で呼び捨てです。それが江戸を出て備中松山まで歩いていくなかで、噂を聞くにつれて、「山田なる者」から「山田方谷先生」へと変わっていきます。

人間は遠くから見ていると分からないけれども、付き合ってだんだん深みが増し、味が出る。そういう付き合い方が良いなと感じます。

【十七】　子曰く、臧文仲　蔡を居き、節に山し、梲に藻す。何如ぞ其れ知ならん。

蔡とは大亀の甲羅です。天子の葬廟に飾るものです。

孔子が言うには、臧文仲は大亀の甲羅を家に置き、天子の建物のように柱に枡形に山のような形を彫って、梁の上の短い柱に藻の彫刻をしている。天子の建物に許されている彫り物であり模様であるにもかかわらず、なぜこのようなことをしているのか。

礼儀作法に関して臧文仲が無視しているわけです。臧文仲は知者（物知り）と言われているけれども、こういう奢りをするとはけしからんと言っています。

外では節約をうたって、中では贅沢をしている。言うこととやることが違う人は信用できないということです。

【十八】　子張問いて曰く、令尹子文、三たび仕えて令尹と為れども、喜べる色無し。三たび之を已めらるれども、慍れる色無し。旧令尹の政は、必ず以て新令尹に告ぐ。何如と。子曰く、忠なりと。曰く、仁なるかと。曰く、未だ知らず、焉んぞ仁なるを得んと。崔子斉の君を弑す。陳文子馬十乗有り。棄てて之を違る。他邦に至れ

ば則ち曰く、猶吾が大夫崔子のごときなりと。之を違る。一邦に之けば、則ち又曰く、猶吾が大夫崔子のごときなりと。之を違る。何如と。子曰く。清なりと。曰く、仁なるかと。曰く、未だ知らず、焉んぞ仁なるを得んと。

子張が孔子に聞きました。

「内閣総理大臣の子文は、三回総理大臣に任命されたけれども、少しも喜ぶ様子はありませんでした。辞める時にも、恨んだり怒ったりしていません。総理大臣を辞める時には、次の総理大臣にきちんと政策を引き継いでいます。子文という人物はどうですか」

鳩山さんのように国民が聞く耳を持たなくなったと言って辞めるようでは、二回目三回目はないだろうと思ってここは読みました。自民党から民主党に代わった時に、総理大臣の引継ぎはきちんとできたのでしょうか。足を引っ張りながらやっているように感じます。これは恥ずかしいことです。総理大臣になる人、或いはなった人はここらへんをよく味わって読めば良いと思います。

孔子が、「それは忠と評価できる」と答えました。

子張が重ねて聞きました。

「では、仁者でしょうか」

仁者とは私心がない。行いが自然と道にかなうような人が仁者です。子文は国家の事業を優先して自分自身の為に正道を曲げるようなことはしていないから、子張が聞いたわけです。

それに対して孔子が、「そう見えるかどうかは知らない。そう軽々しく仁者とは口に出せない」と答えました。

更に子張が聞きました。

「斉の家老である崔子が主君を殺しました。崔子の同僚である陳文子はそれを見て、40 頭の馬を飼っているような、結構な財産を捨てて斉の国を去りました。他所の国に行ってみたら、ここも卑劣なことをする崔子と同じような人がいると言って、又、他所の国に行きました。すると、又ここも同じような人がいるとがっかりしてその国を去りました。これはどう評価されますか」

孔子が答えました。

「身を清くして悪いものに汚されないようにしているので、それは清い人物である」

子張が「では、陳文子は仁者ですか」と聞きました。

孔子が「仁者といえるかどうか、私はまだ分からない。（自分だけが清くあるだけで、乱れた国を救おうとしないのに）どうして仁者と言えようか」と答えました。

今、小売業のユニクロさんやニトリさんが非常に儲かっています。日本の国の中で日本人を雇用して製品を作って、十分な利益が上がる仕組みでやっていれば素晴らしい経営者ということになると思いますが、ベトナムや中国の安い労働力をあてにして、それなりの製品を海外で作って、日本に持ってきて売ったり、他所の国で売って儲かっているわけです。以前から日本の製造業は空洞化すると言われていました。今はあまり言われませんが、現実には相当進んでいます。日本から働く人や技術者がどんどん出て行っています。他の国で指導することができる技術者やレベルの高い職人さんは、どんどん他所の国に引っ張られて、日本の中は空洞化して稼ぐ人がいなくなって来ている。そんなふうにこの文章から感じます。

綸言汗のごとし

『カレント』6 月号に、「カレント 6 月号がお手元に届く頃は、鳩山さんは退陣しているでしょう。その後は菅さんか仙谷さんが総理大臣になっていると思います。もし鳩山さんがぐずぐずと総理大臣の椅子にしがみついていれば、民主党の支持率は 10%台で参議院選挙に突入するだろう」と書きました。実際、鳩山さんは退陣し、菅さんが首相になりましたので、書いたことが当たりました。

木内信胤先生は亡くなる前に、予測学という学問を創りたいと言っておられました。「事実を事実通りに並べていくと、その次はこうなると自然と見えてくるものだ」と言っておられました。それを私も活用するようにしています。

又、木内先生は「共産主義なんていうものは世の中に広がらないよ。親不孝者が考えた主義など、国家国民に受け入れられるわけがない。一つの国家国民を騙すのも、100 年が限度だよ」と言っておられました。真っ当なことを真っ当にやっていって、それが世の中の役に立っていればそのまま坦々とその道は進んでいくけれども、ベースに親不孝や私利私欲があり口先だけ綺麗なことを言っていると、必ずその国・政権は滅びてゆく。基本的な部分での判断基準だと思います。これは国家の運営もそうですし、自治体や会社の運営もそうでしょう。

翻って、最近の菅さんの発言はどうでしょうか。

参議院選挙では 50 議席を目標とすると言っています。大分低くしたと感じます。

それから、自分の内閣を奇兵隊内閣と名付けました。奇兵隊の中身をどこまで知ってい

るのかと思います。奇兵隊は、里正隊という山田方谷が百姓の倅たちを集めて創った洋式の軍隊が元になっています。長州の久坂玄随が里正隊の訓練を見て、驚いて帰って高杉晋作に報告し、その話を聞いて作ったものが奇兵隊です。菅さんは自分が庶民の出で草の根から出たということで奇兵隊という名前を使ったのでしょうが、そうなると閣僚にも同じような人をもう少し活用しなければいけないのではないかと思いました。言い得て妙だとは思います。

又、最少不幸な社会を作りたいとも言っています。これも苦しい科白だと思いました。ブータンのＧＨＰについては以前もお話ししました。多分、ブータンは幸せだと思う国民が世界で一番多い国ではないかと私は思っています。実際に出かけて行ってみると、あと 10 年くらいはそう思う国民が圧倒的に多い国だと感じました。それと対比して、最少不幸の国を作りたいと言ったのだと思いますが、これは今後、物議を醸すだろうと思います。

もう一つ、日本経済を浮揚する第三の道を目指したいと言いました。第一が自民党歴代の浮揚、第二が小泉改革、第三の道が自分がこれから打つ経済改革だということのようです。

このように最初のうちは目くらましの発言が多いので、自分が氣になった科白をずっと追いかけて、毎月一回棚卸しのような感じでチェックしていかれると良いと思います。だんだん言葉が変わってくるはずです。鳩山さんは、「最低、県外」を「出来うる限り県外」と、一度発言したものを言い換えました。「綸言（りんげん）汗のごとし」で、内閣総理大臣の言葉は重いので変えようがない。おそらく菅さんも多言ですから、言葉に振り回されると思います。

菅さんが鳩山さんと違う所は、菅さんは総理大臣になりたいと 30 年間ずっと思い続けてきたわけですから、やろうと思っている政策が沢山あるはずです。総理大臣になったらあれをしたい・これをしようと思っていれば、やるべきこと・打つべき手は次々に涌いて来るはずです。鳩山さんの場合は、たまたま政治力学の中でポロンと生まれた鬼っ子のような首相ですが、菅さんは自分で手を挙げてなったのですから動き方がまるっきり変わってくるという期待を今、しています。

これは仏教で言うところの阿頼耶識で、何かが欲しい、何かを成し遂げたいと強く思えば思うほど、潜在意識の中に沁み込んでいく。それが日常生活に波及してくればしめたものです。阿頼耶識の中にその思いが入れば、まず実行・達成できる。ですから総理大臣になりたいなりたいと思っていた菅さんが実際になったのですから、打つ手は違うはずだと思います。

不況のトンネル

今の世の中は悪くなる一方だと思っています。昨年の１月に申しましたのは、「これから不況のトンネルに入って、出口は見えない」ということでした。今年の１月には、「不況のトンネルは続きます。昨年は舗装道路でしたが、今年はでこぼこ道です。倒産する会社、自殺する人はどんどん増えていくでしょう」と申し上げました。

来年の 1 月は次のような言い方になると思います。不況のトンネルの出口が今年は見える。トンネルの先の方に明かりが見えて、スピードを上げて行く。しかしトンネルを出ると崖があるので、落ちて死亡します。ですから明かりが見えてきたらどんどん減速して、トンネルの出口に来たら止まる。車から降りて準備をして、崖を登るか縄梯子で崖を下りるかの動きをしなければいけません。くれぐれも明かりに向って突進してはいけません。

トンネルの先に明かりが見えるのは、来年の後半だと思っています。来年の後半はそういう準備を一所懸命する必要があると思います。ですから体力も持っていなければいけない。まだ 1 年以上ありますから、体力に自信のない方はたっぷり睡眠をとって、手足に力をつけて戴きたい。1 日１万歩は歩くようにしていれば、崖を下りることが出来るのではないかと思っています。

ですから来年の１月に申し上げることは、何とか生き延びて下さいということです。生き延びるためには氣力・体力・知力が要りますが、一番根幹にあるのは「知足」という考え方です。ほどほどで良いという考え方がベースにあると、何とか生き延びていくことが可能だろうと思っています。もっともっと・・・を追求してゆくと危ない。売上げ至上主義で売上げを伸ばすことばかり考えていると、加速して崖を転落します。ほどほどで良いと思っていると、ちょっとおかしいぞとブレーキをかけて車を止める動作に移れます。

「利によりて行なえば、怨み多し」

本日のテーマは「利によりて行なえば、怨み多し」です。これは基本哲学の「知足」と一致しています。

「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉は、渋沢栄一の『論語講義』の中にもあります。渋沢栄一は幼い時から父親に論語の素読を教わって、その後、義理の兄から徹底的に四書五経を教え込まれました。小さい時から漢学を教えられて、そういう素養が身に付いていました。大人になって考えるのに、自分自身が世の中を真っ当に生きていく為には、決断する時に間違えてはいけない。自分が役人をやっている時、民間で日本最初の銀

行である第一国立銀行を創った時、色々な判断を求められることが沢山あるけれども、そういう時に間違えてはいけない。渋沢栄一は判断基準を論語に求めました。「論語の中には、天下国家の判断基準から、会社経営の判断基準、家庭の中での判断基準、個人の行動する上での判断基準に至るまで、困った時に論語を紐解けば必ず答えが書いてある。だから私は論語を大いに活用するのだ」と言っています。一生涯、渋沢栄一は論語の教えを守り続けたし、これから世の中に出てくる青年男女諸君も論語をそのように活用して貰いたいと紹介をしています。

渋沢栄一が論語の中で一番活用した言葉が、「利によりて行なえば、怨み多し」です。第一国立銀行の融資の判断基準もこの言葉です。儲けようと思って金を借りに来る奴はろくな奴がいない。私利私欲を貪らない、天下国家の役に立つという考え方で金を借りに来る人間に融資する。担保を求めずに、その人物を見抜く眼力を銀行員がつけるべきだという考え方であり、指針でした。

今の銀行は全然違う経営方針のようですが、たまには原点に返って戴きたいものだと思います。渋沢栄一が自分の人生を送る上において選んだ道は金融業でした。銀行という仕組みを通じて日本の国に新しい事業を興したいと願って、生涯で五百数十の日本の基幹産業になる企業を作り上げ、喜寿で引退し、その後は社会公共事業や教育関係の団体六百数十に関係しました。

今の時代に必要なものは、自分自身どうやって生きてゆけばよいか、哲学をしっかり腹に収めること。それから、学ぶとは真似をするということですから、歴史上の人物や生きている人物で素晴らしいと思う人物を見つけて、その人物を徹底的に掘り下げて真似をしてみる。この二つだと思います。

以上で本日の講話は終了です。有難うございました。